



追加型投信／国内／株式

三菱UFJ 日本株オープン「35」

ファンド情報提供資料
データ基準日：2023年3月31日

当ファンドの運用状況と今後の運用方針等

平素は「三菱UFJ 日本株オープン「35」」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
本資料では、当ファンドの運用状況および今後の運用方針等についてご説明いたします。

当ファンドの設定来の運用状況

- 当ファンドは、主に中長期的な事業の収益性・成長性が見込まれ、かつ十分な投資成果が期待できると判断し選別した「35銘柄」に投資することで、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざしています。
- 当ファンドのパフォーマンスを見ると、2023年3月末の基準価額(分配金再投資)は、投資成果を積み上げ、設定時の約3倍になりました。
- 当ファンドの設定から2022年までの年間騰落率を見ると、TOPIXを上回った年は24回中15回(63%)でした。2023年の当ファンドの年間騰落率は、3月末時点でTOPIXを上回っています。

当ファンドのパフォーマンス(上段)と年間騰落率(下段)



・東証株価指数(TOPIX)は当ファンドのベンチマークです。・パフォーマンス:基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。・年間騰落率:1999年は3月23日(設定日前営業日)～12月末の値を使用しており、10,000を起点としています。2023年は、3月末までの値です。当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

本レポートでは、組入銘柄に対する運用チームの視点(P.5)や運用担当者によるコラム(P.6)も掲載していますので、ぜひ最終ページまでご覧ください。



三菱UFJ 日本株オープン「35」

過去半年間の市場環境と当ファンドの運用状況（2022年10月～2023年3月）

■市場環境(国内株式市場)

- ・当該期間のTOPIXは、9%上昇しました。
- ・2022年11月下旬にかけては、世界的なインフレ動向や金融政策を巡る過度な懸念が一服したこと等から上昇しました。12月上旬から下旬にかけては、日銀の金融政策修正を受けて国内金利が上昇したことや米国の景気先行きへの懸念等から下落しました。
- ・2023年1月上旬から足下にかけては、米国の金融不安等により短期的に調整する場面はありましたが、米国の利上げの打ち止め観測の台頭や中国経済の回復期待等を背景に上昇しました。

■当ファンドの運用状況

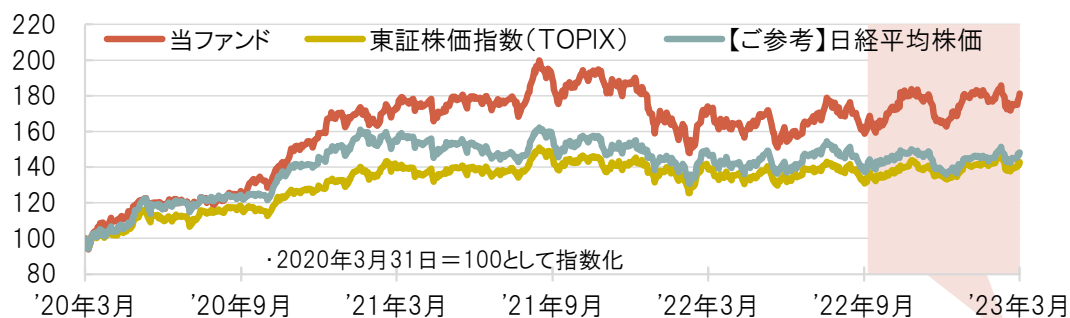
- ・当該期間の当ファンドの基準価額は、14%上昇しました。
- ・業種別では、電気機器の組入比率をベンチマーク対比で高めていたこと、陸運業を保有しなかったこと等がベンチマークを上回る要因となりました。
- ・個別銘柄では、マネーフォワード(情報・通信業)やスミダコーポレーション(電気機器)、そーせいグループ(医薬品)等がプラスに寄与した一方で、世界経済の先行き不透明感や原材料価格上昇等からデクセリアルズ(化学)、ビジョナル(情報・通信業)、日東紡績(ガラス・土石製品)等がマイナスに影響しました。

＜主な投資行動＞

- ・2022年終盤までは世界的な経済の先行き不透明感を考慮し、ITサービス関連やヘルスケア関連を集中的にリサーチしました。特にSansan(情報・通信業)やマネーフォワード(情報・通信業)等のDX(デジタルトランスフォーメーション)関連銘柄は、業績良好で「成長局面」の大きな潮流と実感していたため、引き続き高位を維持しました。
- ・国内外経済への不透明感を考慮し、レゾナック・ホールディングス(化学)や富士電機(電気機器)等の一部銘柄のウェイトを引き下げました。

・上記は当ファンドの理解を深めていただくことを目的としており、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。業種は、東証33業種で分類しています。

直近3年間の当ファンドのパフォーマンス（期間：2020年3月31日～2023年3月31日）



半期毎の騰落率	2020/4- 2020/9	2020/10- 2021/3	2021/4- 2021/9	2021/10- 2022/3	2022/4- 2022/9	2022/10- 2023/3
当ファンド	25%	39%	8%	-8%	-8%	14%
東証株価指数(TOPIX)	16%	20%	4%	-4%	-6%	9%
【ご参考】日経平均株価	23%	26%	1%	-6%	-7%	8%

・当ファンド：基準価額(分配金再投資)を使用。運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。当ファンド(分配金再投資)の騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。・TOPIXは当ファンドのベンチマークです。日経平均株価は、当ファンドのベンチマークではありませんが、国内株式の値動きを説明するために表示しています。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

今後の市場見通しと運用方針

■今後の市場見通し

- 今後の国内株式市場は、短期的には引き続き変動性の高い展開が予想されます。国内外におけるサプライチェーンの在庫調整には進展が見られるものの、米国をはじめとする景気後退懸念は根強い状況です。しかし長い目で見れば、脱炭素社会に向けた投融資や経済のデジタル化関連需要等が、経済を底上げしていくと考えています。
- 国内株式市場においては、企業価値向上の動きが続く見込みです。2022年4月の東証市場区分再編に続き、2023年3月のPBR(株価純資産倍率)1倍割れ企業に対する東証の改善策要請や、2023年7月には日本取引所グループによる東証プライム上場企業の中から資本効率の高い企業150社を選定した新指数「JPXプライム150指数」の算出開始等が予定されています。こうした一連の市場構造の変化は、従来欧米企業に対して見劣りしていた国内企業のROE(自己資本利益率)等の企業価値を評価する指標の中長期的な改善に繋がるものと見ています。

■今後の運用方針

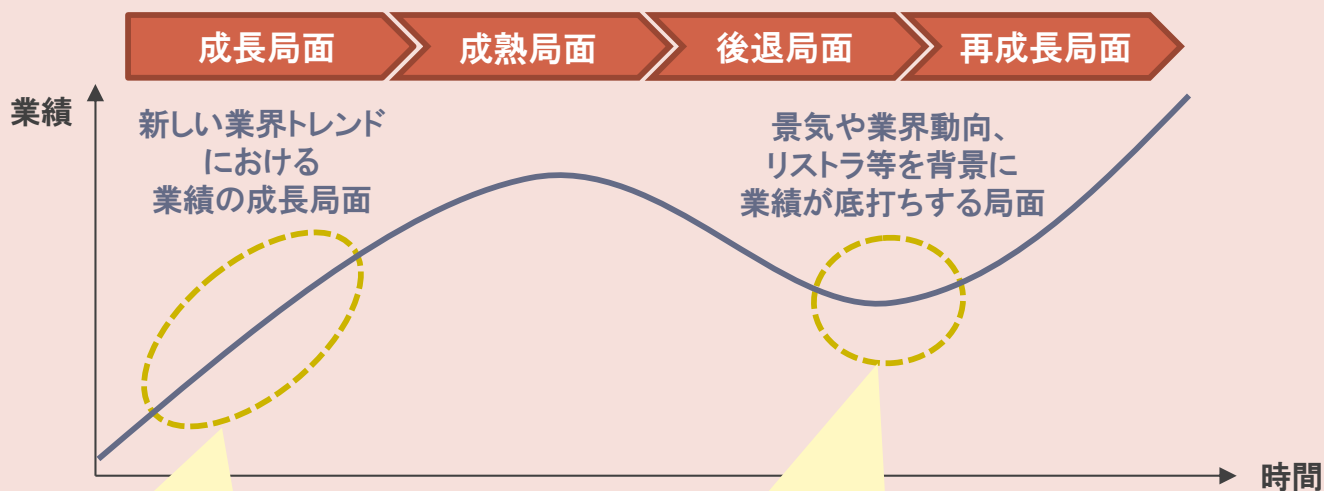
- 足下厳しい市場環境が続いていますが、今後も運用哲学、ファンドコンセプトに則った運用を継続していきます。当ファンドの運用チームの運用哲学は、「利益を生み出す力と時代の風を見極める」こと、当ファンドのコンセプトは、「企業の成長性(企業の成長・再成長)に着目し厳選した銘柄に投資する」ことです。
- 成長局面では成長の源泉、再成長局面では経営の変革等の観点を重視します。今後も運用チームでは、事前に局面ごとの方向性を綿密に見極め、中長期的に企業価値を高める企業を見出すべく、「成長・再成長」にフォーカスしたボトムアップリサーチに注力して参ります。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

(2023年3月31日時点)

《「企業の成長・再成長」の局面推移(イメージ図)》

当ファンドが着目している「企業の成長・再成長」の局面推移をイメージ化したものです。黄色で丸を付けた2つの局面(成長局面と再成長局面)について、当ファンドでは厳選して銘柄を選定しています。成長局面には小型の新興銘柄等が、再成長局面には成熟企業で再び大きな変化の兆しが見込める銘柄等が入ります。具体例として2023年3月末時点の組入上位銘柄の一部を記載しました。



成長に期待して組み入れた銘柄例

そーせいグループ、トリケミカル研究所、東京エレクトロン 等

再成長を期待して組み入れた銘柄例

第一三共、イビデン、スミダコーポレーション 等

・上記は、当ファンドへのご理解を深めていただくために作成した「企業の成長・再成長」の局面推移のイメージ図です。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

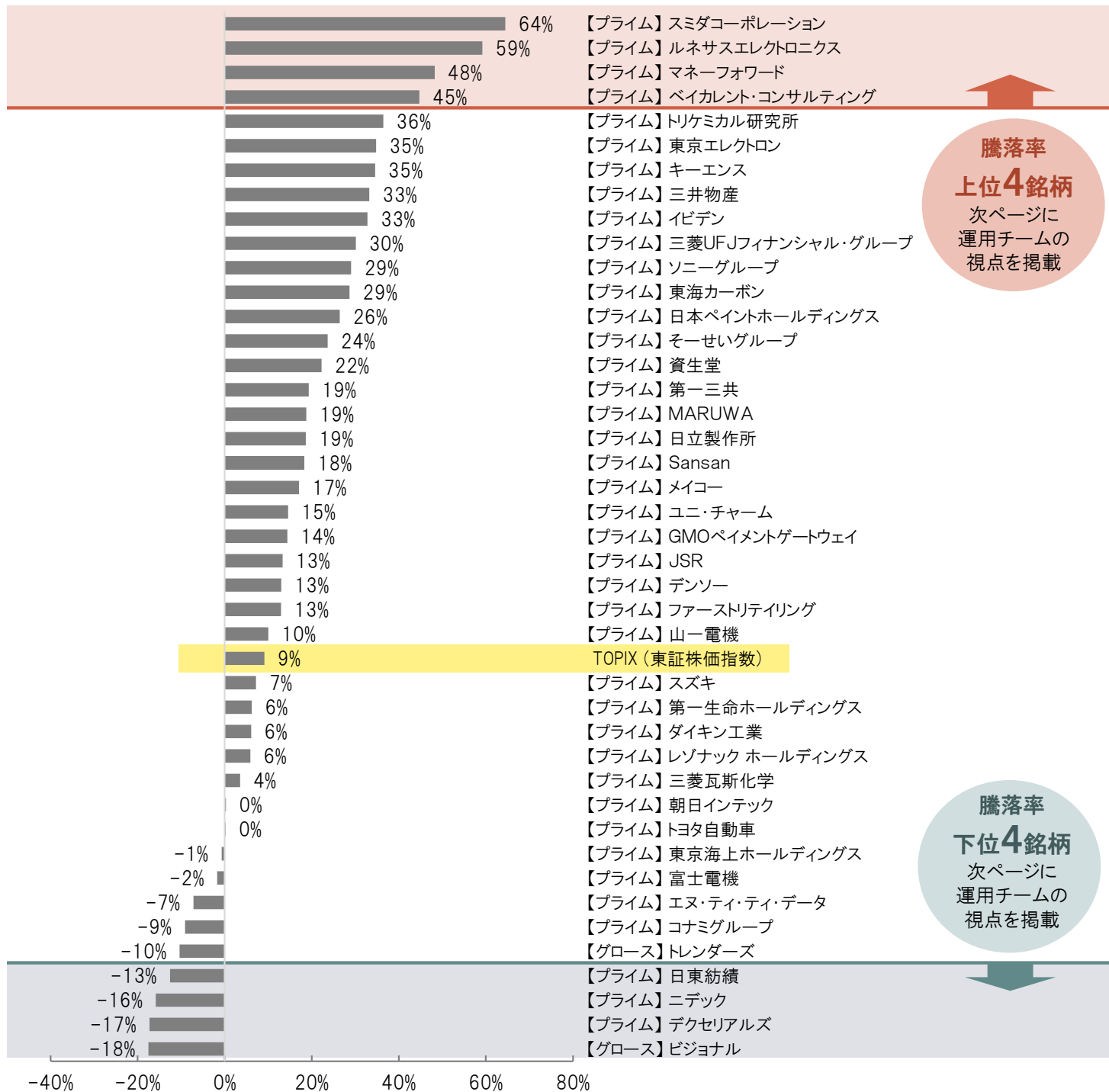
三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】組入銘柄の騰落率(2022年9月30日～2023年3月31日)

当ファンドが組み入れている銘柄について、ご紹介いたします。

下記は、2023年3月31日時点における当ファンドの組入全銘柄(42銘柄)とTOPIXについて、直近半年間における株価の騰落率を算出し、降順に並べたものです。

※当ファンドにおける保有期間等を考慮したものではなく、当ファンドへの寄与度、運用成果とは異なります。



騰落率
上位4銘柄
次ページに
運用チームの
視点を掲載

騰落率
下位4銘柄
次ページに
運用チームの
視点を掲載

(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は、作成日時点で上場している市場(【プライム】【スタンダード】【グロース】)を記載しており、将来変更される場合があります。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・上記は当ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

前ページの騰落率上位・下位4銘柄につきまして、「運用チームの視点」を中心に銘柄の紹介をいたします。

■ 騰落率上位 4 銘柄（2022年9月30日～2023年3月31日）

1. スミダコーポレーション 銘柄の概要： コイル関連の部品およびモジュール製品の設計と製造等 ＜運用チームの視点＞ コイルをベースとした製造技術のスペシャリストとして60年以上の実績を誇る企業です。老舗でありながら、近年自動車産業のカーボンニュートラルに向けた動きが加速する中、EV（電気自動車）関連の新規プロジェクトを数多く獲得しており、今後も中長期的に成長が期待されると考えています。	2. ルネサスエレクトロニクス 銘柄の概要： 半導体素子や集積回路等の電子部品の研究、開発、製造等 ＜運用チームの視点＞ 日立製作所、三菱電機、NECを起源とする歴史ある強力な技術基盤を有していることに加え、2017年以降、複数の企業を買収し、製品ラインナップを拡充しており、ビジネスの多角化が進んでいる点を評価しています。
3. マネーフォワード 銘柄の概要： 資産管理アプリ、会計・人事クラウド等を提供するソフトウェア開発企業 ＜運用チームの視点＞ 同社は、時代の流れとともに発生するお金に関する課題を解決するサービスを提供しています。キャッシュレス決済の普及や2023年10月から導入されるインボイス制度等を追い風に、同社が提供するサービスへの需要は一層高まると見えています。	4. ベイカレント・コンサルティング 銘柄の概要： 多岐にわたる産業において総合的なコンサルティングサービスを提供 ＜運用チームの視点＞ DX関連、働き方改革やサステナビリティ関連のニーズが増加する中、国内最大級の総合コンサルティングファームとして実績を積み上げるため、2026年2月期までの5年間で売上、利益ともに年率20％増を目安に、高付加価値サービス等の取り組みを進めている点に注目しています。

■ 騰落率下位 4 銘柄（2022年9月30日～2023年3月31日）

1. ビジナル 銘柄の概要： 「ビズリーチ」を創業事業とするアプリケーション製品開発企業 ＜運用チームの視点＞ ビズリーチ事業は、ユニークなビジネスモデルとテクノロジーへの積極的な投資によって、日本の雇用流動化を支えるプラットフォームに成長しました。業績は期待通りであったものの景気の先行き不透明感から短期的な人材採用ニーズがスローダウンするという懸念等により、この半年間の株価は調整しました。中長期的には、日本企業の慢性的な人材不足が市場拡大をけん引すると考えています。	2. デクセリアルズ 銘柄の概要： スマートフォンや自動車等に強みを有するニッチな接合材料、光学材料等を製造・販売 ＜運用チームの視点＞ 中華スマートフォン（中国に拠点を持つ企業が開発するスマートフォン）の販売低迷やパソコンの在庫調整に対する懸念等の先行き不透明感からこの半年間の株価は軟調に推移しました。中長期的には、自動車で使われるディスプレイの枚数増加・大型化等の流れを受け、反射防止フィルムや異方性導電膜、光学弾性樹脂等の拡大は今後も続くと考えています。
3. ニデック ※2023年4月1日に日本電産から社名を変更 銘柄の概要： 世界有数のモーターメーカー ＜運用チームの視点＞ IT機器・家電等の出荷ピークアウト、グローバル自動車生産台数回復の遅れ等厳しい事業環境から、2023年1月には業績計画を下方修正しており株価は軟調に推移しました。一方、電気自動車用駆動モータシステム「E-Axle」の受注は順調で、サイズダウンとコストダウンを実現した量産を昨秋に開始しており、生産能力拡大に注目しています。	4. 日東紡績 銘柄の概要： 2023年に創業100年のガラス繊維大手、半導体向け高機能ガラス等に強み ＜運用チームの視点＞ スマートフォンや高性能パソコン等の電子機器向け半導体の需要低迷等によるマイナス影響を懸念し株価は下落、2023年2月に業績計画を下方修正しました。しかし、同社の強みであるスペシャルガラスは通信・情報インフラの高性能化および自動車の電装化等から、より付加価値の高い製品が拡大し、今後の業績を押し上げると見えています。

（出所）各社HP、各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成
・コメントは、2023年3月31日時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。・上記は当ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】想定する日経平均株価水準（2023年3月31日時点）

日経平均株価の2023年度の見通しは25,000円から31,300円を想定しています。

※ 日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

- ・ 前提は日経平均株価の予想PERで12倍～14倍、為替は130円～140円(1米ドル)としています。
- ・ 予想PERが14倍、140円(1米ドル)等の前提で日経平均株価は31,300円程度の水準を想定、予想PERが12倍、130円(1米ドル)等を前提とした場合では、日経平均株価は25,000円程度の水準を想定します。

為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想 2023年度、円

	日経平均株価 予想水準			
	PER 12倍	PER 13倍	PER 14倍	PER 15倍
米ドル 125円 ユーロ 135円	24,100	26,100	28,100	30,100
米ドル 130円 ユーロ 140円	25,000	27,000	29,100	31,200
米ドル 135円 ユーロ 145円	25,900	28,000	30,200	32,400
米ドル 140円 ユーロ 150円	26,800	29,100	31,300	33,500
米ドル 145円 ユーロ 155円	27,800	30,100	32,400	34,700

・日経平均株価予想＝一株当たり純利益×PER(株価収益率) ・「一株当たり純利益」は運用チームの予想値 ・上記は、運用チームの見解です。

《運用担当者によるコラム》 中長期的な企業価値とは

バリュー(割安)銘柄が優位か、グロース(成長)銘柄が優位か、という議論を皆様もお聞きになられたことがあるのではないのでしょうか。東証から、継続的にPBRが1倍を割っている企業に対して、改善に向けた方針や取り組みの開示を求める、という強い意向が明らかになったこと等を背景に、PBR1倍割れの割安銘柄に株式市場の関心が高まっているように感じています。こうした銘柄は市場が評価した値段(時価総額)が、会計上の解散価値である純資産額を下回っているため、その部分で上昇余地があると捉えられています。しかし長い目で見ると企業が生み出す付加価値が向上すれば企業価値は比例して高まると考えており、そうすると成長株投資のアップサイドポテンシャルには天井がなく、割安株投資のポテンシャルを上回ると言えるのではないのでしょうか。

短期的なパフォーマンスは、バリューかグロースかという相場の局面に左右される可能性は否めませんが、中長期的な投資成果をめざす上で大切なことは、リスクの見極め方だと思います。現在、国内では賃上げやインバウンド再開、海外に目を向けると中国の経済再開や米国のインフレと金融不安、混迷の続くウクライナ情勢等、目の前には好悪材料が交錯し複雑化しています。こうした変動性の高い局面や、バリューかグロースかという投資スタイルの片寄った局面においては、本来の企業価値から乖離したと思われる株価形成がなされることも多く見られます。

引き続き、ボトムアップリサーチに注力して、中長期的に企業価値を高める企業を発掘し、当ファンドのパフォーマンス向上に努めて参ります。(2023年3月31日時点)

- ・当ファンドの運用担当者とその肩書は2023年3月31日時点のものであり、将来変更される場合があります。
- ・市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合があります。



三菱UFJ国際投信
チーフファンドマネジャー
小島 直人

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本資料で使用している指数について】

■東証株価指数(TOPIX) ■日経平均株価 本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)を合わせてご確認ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資を行い、東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざします。

■ファンドの特色

特色1 わが国の株式を主要投資対象とします。

特色2 「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資します。

・「35銘柄」に絞り込んで投資することで、全産業に投資するよりも高いパフォーマンスをめざします。また、より綿密な情報分析と継続フォローの徹底を図ります。

特色3 銘柄選定は、個別企業訪問等を通じ分析するボトム・アップ・アプローチにより行います。

特色4 東証株価指数(TOPIX)をベンチマークとし、これを上回る投資成果をめざします。

■ファンドの仕組み

・運用は主に日本株オープン「35」マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

- ・年1回の決算時(3月23日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
 - ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
 - ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)/販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2029年3月23日まで(1999年3月24日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3月23日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 上限2.2%(税抜 2%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)
--------	---

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.65%(税抜 年率1.5%) をかけた額
その他の費用・手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ 日本株オープン「35」

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
株式会社三菱UFJ銀行(※)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○